

(様式6-3)

研修等 報告書

平成29年 5月 30日

三田市議会議長 平野 菅子 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民の会	代表者	美藤 和広	印
		議員名		印
参加者氏名	印			
講演会等研修名	第19回リサーチ・コンソーシアム総会記念事業			
研修事項	A Iは社会をどう変えるのか？ ～「個別化」後の人工知能活用と協創の社会」 講演者：楽天技術研究所代表／楽天株式会社執行役員 森 正弥 氏			
日 時	平成29年5月26日（金曜日）～ 平成29年5月26日（金曜日）			
場 所	西宮市上ケ原町一番町1-155 関西学院西宮上ケ原キャンパス			
所 見	・別紙の通り			
添付資料	・第19回リサーチ・コンソーシアム総会記念事業プログラム ・講演資料 ・			

6 添付書類（講演会内容のパンフレット等）

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。（代表者名、参加者氏名は不要）

調査日時	2017年 5月 26日(金) 13時00分～ 14時30分
視察先	西宮市上ヶ原町一番町1-155 関西学院西宮上ヶ原キャンパス
調査事項	AIは社会をどう変えるのか? ～「個別化」後の人工知能活用と協創の社会 講演者：楽天技術研究所代表/楽天株式会社執行役員 森 正弥 氏
(調査結果の概要及び所見)	
<p>楽天技術研究所は全体のロードマップを作らない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世の中のメガトレンドは誰も予想ができない。 ・研究者一人ひとりが目標を持って活動し、全体でロードマップにはしない。 <p>株式会社自立制御システム研究所とドローンを開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴルフ場コース内でのゴルフ用品や軽食、飲み物のデリバリーを行うことができた。それには着陸に楽天技術研究所の画像認識技術を活用した <p>deep-learning を活用したカテゴリー分類機能をリリースした</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たとえば、イヤホンと AC アダプターを認識出来る。 <p>deep-learning による MT を活用した言語学習機能をリリースした</p> <p>もともとシンガポールのビジネスで映像に字幕をつけるサービスを行っていた。160以上の言語 200カ国でサービスしていた、各シーンごとに字幕をつけるもの日本ではライセンスの関係で、使えていない。</p> <p>ビッグデータと人工知能の相乗効果によって大きく変わろうとしている</p> <p>専門家が負けていくと言う問題</p> <p>人工知能の性能・精度が高くなっている</p> <p>人類(消費者)「個別化」している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロングテールの発展 ・新しい「情報の非対称性」の登場 <p>→人工知能活用なしには、もはや(企業)は生きていけない</p> <div data-bbox="1066 1339 1452 1556" data-label="Figure"> </div> <p>ロングテール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロングテールとは、長い尻尾の意。 <p>商品を売上高順に並べたグラフの形から付いた。</p> <p>今まで、パレート図で 20%の商品が 80%の売上げという 80-20 の法則に対し、インターネットを使った商品販売では、単独では多くの販売量を期待できない商品であっても多品種を少量ずつ販売することで収益を上げられるという現象。人気のある少数の主力商品だけでなく、これまで切り捨てられてきた商品にも注目が集まるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロングテール現象はインターネットの様々なところで見られる ・もはやどの商品が売れるかというのは誰にもわからなくなった ・人手で分析するのは限界がある <p>1900年の馬車ばかりのマンハッタンの光景が、1995年の自動車だけに変わる。</p> <p>その裏には、自動車を作る技術の進歩と労働力がある。</p> <p>この間、労働者が急増し、人手不足で、賃金も倍増となった。</p> <p>2005年のバチカン市の法王を決めるコンクラーベでは、ひたすら待つだけの人々だったが、2013年のコンクラーベではみんながスマートデバイスを持ち、いつでもオンライン状態で</p>	

インターネットにつながっていた。
誰もが世界中の友達とコミュニケーションできる。
誰もが撮影した写真を共有できる世界に向けて動画発信ができた。

新しい形で登場してきた「情報の非対称性」

- ・ アダム・スミスの「神の見えざる手」
- ・ 近代経済学による「情報の非対称性」
- ・ インターネットによる逆転

商品を理解し、ユーザを理解する

商品のクラスタリングが行われ商品に対する評価「レビュー」の解析が行われた
多様化したユーザのクラスタリングも行われる
多様化したユーザの好みへの最適化を行う 300 パターン以上を人間も参加して行った

個別化・予測のプラットフォーム

ロングテールに対応しニーズを自動発見する
隠れたより多くのニーズを自動的につかむ
需要を予測し、個別化されたすらも予測
ファイナンスや経営の予測など、かなりの精度で実現できた。

しかしながらアイドル CD 販売数は予測できなかった。

「握手券」により、1人1枚しか買わなかった CD を、1人が何枚も買うことが起こった。
これが新たな発想は、AIの限界であり、人間の智慧である。

新しい関係

- ・ AIの高度化により、さまざまな色のが AIに置き換わることで、雇用は収奪されていくのではないか
- ・ 人は創造性を持っている。
- ・ 機械（AI）はロングテールとビッグデータを処理できる力を持っている

人の知と機械の力を統合する「新しい関係」に向かっている。

今までは人間が考えて、ロボットが同じことを繰り返して作業をしてきた。

これからはロボットが考え、ロボットが繰り返す
人間はルールを作る。これがこれからの人間のあり方であろう

<所感>

三田市の業務も、窓口やデータ管理など、ルーチン業務はAIで対応できるようになり、さらに、今まで人が行なってきた仕組みづくりまでAIでしてくれることになる。

だからこそ、AIを道具として活かし、ルールを考え、サービスの本質を考えられる人材の養成がこれからの最大の課題である、と考える。

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。（代表者名、派遣者氏名は不要）

市民の会：美藤 和広

第19回 リサーチ・コンソーシアム総会記念事業プログラム

政策学の新たな可能性を求めて—Solution for the future—

日時 : 2017年5月26日(金) 13:00~16:40
場所 : 関西学院西宮上ヶ原キャンパス 関西学院会館レセプションホール
主催 : 関西学院大学大学院 総合政策研究科リサーチ・コンソーシアム
後援 : 関西学院大学社会情報学研究センター
関西学院大学社会心理学研究センター
関西学院大学グローバル・ポリシー研究センター

AIは社会をどう変えるのか?

13:00~14:20 総会記念講演 関西学院会館2階レセプションホール

～「個別化」後の人工知能活用と協創の世界～

講演者: 森正弥氏 (楽天技術研究所 代表 / 楽天株式会社 執行役員)

司会: 角谷和俊教授 (総合政策研究科 [情報デザイン / 社会情報基盤 / クロスメディア設計])

14:40~16:10 パネルディスカッション 関西学院会館2階レセプションホール

パネリスト:

森正弥氏 (楽天技術研究所 代表 / 楽天株式会社 執行役員)

三浦麻子教授 (文学研究科 / 関西学院大学社会心理学研究センター長)

朴勝俊教授 (総合政策研究科 [環境経済学 / 環境政策])

司会: 角谷和俊教授 (総合政策研究科 / 関西学院大学社会情報学研究センター長)

13:00~16:40 ポスターセッション
1階&2階ロビー
(15:40~16:40 ディスカッションタイム)



過去のポスターセッションの様子

事前申し込み不要。直接会場にお越しください。

[関西学院大学大学院 総合政策研究科 Web サイト]

http://www.kwansei.ac.jp/s_policy/

問い合わせ先: 総合政策研究科リサーチ・コンソーシアム事務局

TEL: 079-565-7601 e-mail: gspc-rc@kwansei.ac.jp

関西学院会館までのアクセスマップ

詳しくは下記 URL でご確認ください。
<http://member.kwangaku.net/kwangakukaikan/access.html>

